令和４年度

文学部第３年次編入学者選抜学力試験問題

# 専 門 科 目

## 言語文化学科　日本アジア言語文化学コース

注　　意

１．解答は，別冊の解答用紙の所定の解答欄に書くこと。

２．問題は，Ⅰ～Ⅲの３題ある。
　　Ⅰ ――――― 国語学
　　Ⅱ ――――― 古文
　　Ⅲ ――――― 漢文
　３題とも解答すること。

３．総ページ数　――　４ページ
　問題ページ　――　第２～第４ページ
　（第１ページは白紙）

４．試験終了後，この冊子は持ち帰ること。

Ⅰ　つぎの問に答えよ。

**問一**　学術用語としての「音声」と「音韻」の違いを説明せよ。

**問二**　現代日本語を構成する「語種」をすべて挙げ、それぞれに実例を二つずつ添えて示せ。

**問三**　現代の学校文法で、上一段活用動詞「見る」が「語幹なし」とされる理由と、もし語幹を設定するならどのような考え方があるかについて、述べよ。

**問四**　片仮名について、

（a）主に歴史的な観点で、知るところを述べよ。

（b）左の写真の資料名を答え、使用されている片仮名について気づいたことを述べよ（列挙でも良い）。

**資料は，著作権の関係で掲載しておりません。**

Ⅱ　つぎの文章について、後の問に答えよ。

**問題文は，著作権の関係で掲載しておりません。**

（『正徹物語』による）

**問一**　傍線部1「いつしか俊成も心ぼそき有様に見え侍りし程に」を現代語訳せよ。

**問二**　傍線部2の和歌について、本文中の語釈をふまえながら、「露・なみだ」と「秋かぜ」の関係が具体的にわかるように、言葉を補って解釈せよ。

**問三**　本文中に影印であげた歌について、翻字せよ。漢字とかなの区別はもとのままとすること。

**問四**　傍線部3「すげなげに詠めるが、何ともえ心えぬなり」を解釈せよ。

**問五**　傍線部4「何ともおぼえず殊勝なり」と筆者が評するのはなぜか、わかりやすく説明せよ。

**問六**　二重傍線部「もみにもうだる歌様なり」と筆者が評する歌とは、どのような歌であると考えられるか、本文全体をふまえて説明せよ。

**問七**　藤原定家が撰集に関与した勅撰和歌集について、知るところを詳しく述べよ。

Ⅲ　つぎの文章について後の問に答えよ。ただし、設問の関係で返り点・送りがなを省いた箇所がある。

**問題文は，著作権の関係で掲載しておりません。**

（『韓非子』による）

（注）　○楚荘王――戦国時代の楚の国の王。　○杜子――人名。　○荘蹻――盗賊の名。
○自見之謂明――老子のことば。ただし、今に伝わる『老子』には「自ら知る者は明なり」とある。

**問一**　二重傍線部A～Cの文中での読みを、ひらがなのみを用いて示せ。

**問二**　傍線部1を現代語訳せよ。

**問三**　傍線部2について、

（a）　どういうことか、簡潔に説明せよ。

（b）　このように判断する根拠を二点あげよ。

**問四**　傍線部3を漢字かなまじりで書き下せ。

**問五**　傍線部4はどういうことか、わかりやすく解釈せよ。